

今年度の気象は平均気温が年間を通じて高く、年平均では 1.2℃ 平年より高くなりました。降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多くなりました。

早生品種は小玉傾向で、糖度は平年より高い傾向でした。普通温州では肥大及び糖度は平年並みでした。酸度は全ての品種で平年並み～低い傾向でした。

令和 7 年のまとめ

1 令和 7 年の気象

令和 7 年 1 月～12 月の月別気象を表 1 に示した。月平均気温は、2、5、10、11 月は平年並みであったが、その他の月は平年より高く推移した。特に 9 月は平年に比べ 2.6℃ 高く、前年並みであった。1 年間の平均気温は 17.4℃ で平年より 1.2℃ 高く、前年よりやや低かった。降水量は 3～5 月で平年より多かったものの、全体的に平年及び前年より少なかった。1 年間の合計は 1,368mm で平年の 74%、前年の 68% で、降水量の少ない年であった。日照時間は 5、10 月で平年より少なく、その他の月は平年並みか平年より多かった。1 年間の合計は 2,225 時間で平年の 112%、前年 102% であった。

表 1 令和 7 年の気象（館山アメダス）

年	月	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
令和 7 年	1	7.3	6.4	8.6	48	86	29	216	177	197
	2	6.9	7.0	9.1	31	82	106	211	155	133
	3	11.5	10.1	10.5	245	161	258	182	165	185
	4	15.4	14.5	16.6	178	156	184	174	179	133
	5	18.9	18.5	19.4	205	153	228	120	185	179
	6	24.0	21.5	22.6	113	212	356	190	135	190
	7	27.6	25.2	27.9	52	179	103	264	179	252
	8	28.4	26.7	28.7	29	103	238	272	216	237
	9	26.3	23.7	26.7	135	222	141	200	153	196
	10	19.4	18.6	21.3	212	258	224	78	137	128
	11	13.5	13.7	15.0	29	144	140	150	147	139
	12	10.1	8.9	9.6	94	91	5	168	164	223
平均／合計		17.4	16.2	18.0	1,368	1,846	2,009	2,225	1,991	2,192

注 1) 平年：1991～2020 年の 30 年間の平均値

2) 平均／計：平均気温 (℃) は平均値、降水量 (mm) 及び日照時間 (hr) は合計値を示す

2 令和 7 年の樹及び果実の生育（表 2、3）

暖地園芸研究所における発芽期は、「日南 1 号」が 3 月 31 日、「興津早生」が 4 月 1 日、普通温州が 4 月 7 日であり、平年と比較すると「日南 1 号」で平年並み、「興津早生」と普通温州で 5～6 日早かった。1、2 月の気温は平年並～やや高い程度であり、3 月の気温は平年より高かったが、発芽期の極端な前進は見られなかった。

開花盛期は、「日南 1 号」が 5 月 8 日、「興津早生」が 5 月 9 日、普通温州は 5 月 13 日であり、平年と比較すると全ての品種で平年並みであった。

本年の着花量は、暖地園研では「興津早生」は比較的多く、普通温州では平年並み～やや多い程度であるが、樹ごとにばらつきがみられた。

調査 3 園地（表 3－注 2）の収穫調査時の横径及び縦径は、「日南 1 号」で平年、

前年と比べて短かった。「興津早生」で横径は平年、前年並み、縦径は平年、前年と比べてやや短かった。「大津4号」、「青島温州」は横径、縦径ともに平年、前年並みであった。一果重は「日南1号」、「興津早生」で平年、前年より軽かった。「大津4号」は平年、前年よりやや重かった。「青島温州」は平年より重く、前年並みであった。

着色程度は「日南1号」で平年、前年より早かった。「興津早生」は極端に遅かった前年よりは早く、平年並みであった。「大津4号」は前年よりやや早く平年並みであった。「青島温州」は前年より早く、平年並みであった。糖度は「日南1号」、「興津早生」が平年、前年より高く、「大津4号」、「青島温州」は平年並みで、前年よりやや高かった。酸度は「日南1号」で、酸高であった前年に比べて低く、平年並みであった。「興津早生」は平年及び前年より低かった。「大津4号」は平年並みで、前年よりやや高く、「青島温州」は平年及び前年並みであった。果肉歩合は「日南1号」、で平年、前年並み、「興津早生」で平年、前年よりやや高かった。「大津4号」、「青島温州」で平年よりやや高く、前年並みであった。

表2 令和7年の発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	3.31	4.1	4.1	5.2	5.2	5.1	5.8	5.7	5.5	5.13	5.12	5.10
興津早生	4.1	4.7	4.2	5.3	5.6	4.26	5.9	5.11	5.4	5.16	5.16	5.10
普通温州	4.7	4.12	4.1	5.4	5.11	5.2	5.13	5.16	5.7	5.19	5.21	5.13

注1）平年：直近過去30年間の平均値（「日南1号」は平成27年～令和6年の平均値）

2）普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

表3 令和7年の果実品質（調査3園地、収穫時）

品 種	横 径(cm)			縦 径(cm)			一果重(g)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	6.1	6.7	6.7	4.5	5.0	5.0	97	125	127
興津早生	6.3	6.5	6.6	4.6	5.0	5.1	107	116	128
大津4号	7.5	7.5	7.2	4.9	5.0	4.7	156	147	142
青島温州	7.6	7.4	7.5	4.9	5.0	5.0	159	143	160

品 種	着色程度 (0～10)			糖 度 (° Brix)			酸 度 (g/100mL)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	4.9	3.5	3.9	10.0	8.5	8.1	1.05	1.05	1.24	9.8	8.5	6.9	85.4	85.4	85.3
興津早生	7.0	7.2	4.7	10.6	9.4	8.9	0.77	1.03	0.89	14.5	9.7	10.9	84.2	82.0	82.9
大津4号	8.4	8.4	7.8	10.5	10.2	10.0	0.98	0.92	0.85	11.1	11.4	12.3	77.6	75.9	77.9
青島温州	8.2	7.9	6.8	9.9	9.5	9.3	0.89	0.92	0.89	11.7	10.6	11.3	77.6	74.9	78.2

注1）平年：直近30年間の平均値（「日南1号」は平成28～令和6年の平均値）

2）南房総市三芳地区、同千倉地区及び暖地園研（館山市）の3園地の平均値（「日南1号」は暖地園研における調査のみ）

3）甘味比＝糖度／酸度

4）果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

5）調査日は「日南1号」：10月1日「興津早生」：11月1日

「大津4号」及び「青島温州」：12月1～2日

3 病害虫、生理障害の発生

4～5月は気温が平年より高く、降水量も平年より多かったため、暖地園芸研究所では、そうか病が一部圃場で見られた。ミカンハダニは夏季の発生は平年並みであったが、11～12月にかけて気温が平年並み～高く、少雨であったため、一部圃場で発生が見られた。ミカンサビダニ、黒点病の発生は少なかった。

果樹カメムシ類は、前年に比べて発生は少なかったが、10月に普通温州の圃場で散見された。近年は秋季以降の気温が高い傾向にあるため、殺虫剤をあらかじめ準備しておく。

4 1月以降の栽培管理

(1) 防寒被覆

寒さに弱い幼木や風当たりの強い場所では防寒対策を重点的に行う。低地では樹冠上方を、風当たりの強い場所では樹の全体を被覆資材で覆う。コモ、稲わら、寒冷紗、ビニル等が保温の目的で用いられる。

(2) 土づくり・施肥

高品質のミカンを生産するため、土壌診断などで定期的に土壌の物理性及び化学性を把握し、2～3月に堆肥等の有機物を、3月上旬に春肥を施用する。

(3) 縮伐・間伐・せん定

密植園ではせん定の前に、縮伐や間伐を実施する。これにより、作業性が向上し、高品質果実生産につながる樹形への整枝ができるようになる。

せん定はノコギリを用いた大きな枝のせん除から始め、その後、せん定鋏を用いた比較的細い枝の間引き、切り返しの順で行うと効率が良い。強せん定は徒長した枝が発生しやすく、隔年結果を助長するため、あくまで弱せん定が基本である。樹によってはせん定を行わないか、大枝の除去のみで良い場合も多く、切り過ぎないように注意する。

(4) 病害虫の防除

せん定時には黒点病やそうか病、かいよう病の防除のため、枯れ枝や罹病枝葉を除去し、園外で処分し、園内の菌密度を下げる。そうか病は発芽した芽が1 cm程度に伸びた発芽期以降（4月）及び落花直後（5月）に薬剤防除を行う。春先の気温で生育が早まることもあるため、適期を逃さないように注意する。かいよう病の防除は発芽前と5月中旬に行う。銅水和剤の散布は、農薬のラベルをよく読み、他の農薬との散布時期の調整を行う。

カイガラムシ類やダニ類の防除のため、せん定した後、発芽前までにマシン油乳剤の散布を行う。ただし、樹勢の弱い樹への散布は避ける。また、厳冬期は落葉する危険があるため散布を避ける。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>